



地域資源を活用したまちづくりモデル 構築のための基礎的研究

—歴史文化遺産としての民俗文化財の発掘—

研究代表者 大江 篤 (人間教育学部 児童教育学科 教授)

研究分担者 岩崎日出男 (人間健康学部 総合健康学科 教授)
久禮 旦雄 (三重大学 非常勤講師)
久留島 元 (同志社大学 嘱託講師)
岡本 真生 (地域連携推進機構 TA)

研究協力者 今井 秀和 (蓮花寺佛教研究所 研究員)

連携協力者 辻川 敦 (尼崎市地域史料館 館長)
益田 日吉 (尼崎市教育委員会 歴博・文化財担当 課長)
磯田 雅司 (杭瀬小学校 学習センター運営会議 議長)
内田 大造 (猪名寺自治会 会長)



研究目的

尼崎市のシティプロモーション指針に、尼崎市は「①実態と違うイメージを持たれている。②まちの魅力が十分に伝わっていない。③地域の個性（エリアごとの特徴）が魅力に結びついていない。④子育てファミリー世帯の転出超過の原因と考えられる治安や教育の問題」の4つの課題があげられている。

この課題を解決し、魅力あるまちづくりを推進していくために、地域の資源としての歴史文化遺産を発掘し、地域住民の手で活用できるように基礎的なデータを収集するとともに、まち歩きやボランティアの人材育成等の企画を行うことを目的とする。

研究計画

3年目となる平成27年度は、これまでの研究成果をふまえた伝説、伝承のデータベースをもとに、書籍刊行を準備した。書籍は『尼崎百物語』と題し、平成28年の尼崎市制100周年にあわせ3月に刊行予定。また、北九州市立大学による地域連携事業の視察、兵庫県豊岡市における地域力向上プログラムを実施した。

研究成果

①大江篤編著『尼崎百物語』（神戸新聞総合出版センター）刊行。

伝説データベースをもとに、尼崎の6地区にまたがる100話を選定。尼崎市立地域研究史料館と連携し、神戸新聞総合出版センターから刊行を予定し

て、製作中である。本書は尼崎にまつわる伝説、伝承を紹介するとともに、研究成果をふまえたブックガイド、伝承地をめぐるまちあるきマップとしての性格を備える。それにより読者に地域の魅力を伝え、能動的な学びを喚起するよう企画した。また100話の紹介とは別に尼崎の地域伝承の性格を明らかにするため、「土地の記憶を伝承すること」「水神信仰と住吉大社」「近世・近代の「怪談」文化」「各地の残念さん信仰」をテーマとした論考を収めている。

大江篤は、福崎町文化財フォーラム「福崎町の民俗文化財 - 未来につながる地域の歴史文化遺産 -」において、講演及び保存会の取り組みにコメントを行った。

久留島元は、2015年刊行の『皿屋敷 幽霊お菊と皿と井戸』（白澤社）の共著者として、「尼崎の皿屋敷」について執筆した。また2015年11月8日に京都女子大学で行われた説話・伝承学会秋季大会において、研究発表を行った。

岡本真生は、2016年1月21日に京都民俗学会談話会において、研究発表を行った。

また、大江篤、久禮旦雄、久留島元、岡本真生は、2015年8月に開催された「みんなのサマーセミナー」に講師として参加した。

②北九州市立大学地域創生学群及び北

九州まなびとESDステーションの視察、見学。児童教育学科大江ゼミの学生と北九州市立大学生による研究発表と意見交換を実施した。また学生による着地型ツーリズムに参加した。

③兵庫県豊岡市日高町での取り組みは、地域資源の調査と「災害の記憶を次世代に伝える」をテーマにシンポジウムを2016年2月28日開催。

④東日本大震災の復興支援プロジェクトである「ふるさと怪談トークイベント」を2016年2月27日開催。東京から東雅夫氏（文芸評論家）、今井秀和氏（蓮花寺佛教研究所研究員、共同研究者）を招き、尼崎にまつわる地域伝承研究の成果のほか、実話怪談の実演、災害伝承にまつわるフォーラムを開催。



皿屋敷書影



北九大との交流会